



福島第一原発 廃炉図鑑

開沼博編

福島について考えることは、世界と日本の現在を考えることだ。福島第一原発(1F)を考えることは、私たちの家族や友だちの未来を考えることだ。私たちは考えることを放棄してはならない。だから私たちはまず調べることにした。

朝日新聞、共同通信他書評多数

本書は、世界で初めて「福島第一原発廃炉の現場」の内実を正面から記録した出版物です。世界史的イベントである「福島第一原発事故」の中心に入り、一般住民・民間の立場からその廃炉の現場の実態を調査するということが、事故から5年たってはじめて可能になりました。長期に渡る廃炉の作業と、一時は人が住まなくなったその周辺地域がいかなる未来に向かっていくのか。私たちは、そこに対していかなる理解と想像力をもち向き合っていくことができるのか。私たちの文明や科学技術はもちろん、言葉や文化・芸術の力、民主主義のあり方、社会的包摂の仕組みづくりが試されるのはこれからです。本書はその土台になるべく編集されました。(「はじめに」より)

<p>【目次】</p> <p>■イントロダクション 日本の原子力発電所 福島第一原発広域地図 福島第一原発構内配置イメージ図 本書を読むまでの最低限知っておいてほしいこと凡例</p> <p>■第1章 福島第一原発、最大の問題は何か？ 竜田一人COMIC①「全員集合！」 廃炉クロノロジー 廃炉に関するQ&A 廃炉を知るための15の数字 東京電力を辞めてでも伝えなかったこと ——吉川彰浩</p> <p>■第2章 廃炉とは何か？ 竜田一人COMIC②「オンサイト」 10分でわかる1F廃炉 廃炉工程表 図解 汚染水対策 循環冷却と汚染水の関係 廃炉クロニクル [開沼のまとめ] 福島に残る五つの課題</p>	<p>■第3章 1F周辺地域はどうなっているのか？ 竜田一人COMIC③「オフサイト」 廃炉にかかる予算は？ 避難指示区域について 1Fで働く人たちの暮らしはどうなっている？ [開沼のまとめ]「廃炉の現場」が日本の未来を作る！</p> <p>■第4章 廃炉をどう語るのか？ 竜田一人COMIC④「1Fのこれから」 インタビュー そこに関わり続ける理由 ——糸井重里 (コピーライター・エッセイスト) ——小泉進次郎 (衆議院議員・自由民主党農林部会長) インタビュー 廃炉を語る言葉 ——斎藤環 (精神科医・筑波大学教授) 廃炉を知るための15の数字 (解答編)</p> <p>■あとがき 福島第一原発廃炉独立調査研究プロジェクト (廃炉ラボ) 設立のためのマニフェスト</p> <p>■写真家・石井健の眼</p>	<p>【プロフィール】</p> <p>開沼博 (かいぬま・ひろし) 1984年福島県いわき市生。立命館大学衣笠総合研究機構特別招聘准教授、東日本国際大学客員教授、東京大学文学部卒。同大学院学際情報学府博士課程在籍。専攻は社会学。著書に『はじめての福島学』(イーストプレス)、『漂白される社会』(ダイヤモンド社)、『フクシマの正義』(幻冬舎)、『フクシマ論』(青土社)など。共著に『地方の論理』(青土社)、『原発避難論』(明石書店)など。</p> <p>竜田一人 (たつた・かずと) 職を転々としたあと、福島第一原発で作業員として働く。福島第一原発で作業員として働いた様子を描いた『いちえふ ～福島第一原子力発電所案内記～』(講談社)が「第34回MANGA OPEN」大賞を審査員満場一致で受賞、現在まで3巻が刊行されている。同書はフランス、ドイツ、スペイン、イタリア、台湾でも翻訳刊行され、現在、アメリカでの刊行も準備中。</p> <p>吉川彰浩 (よしかわ・あきひろ) 1980年茨城県常総市生。高校卒業後、東京電力株式会社に就職し、福島第一原子力発電所、第二原子力発電所に14年間勤務。2012年、福島原子力発電所で従事する方々を外部から支援するため同社を退職。13年「Appreciate FUKUSHIMA Workers」を立ち上げ、「次世代に託せるふるさとを創造する」をモットーに福島第一原子力発電所従事者支援と福島県双葉郡広野町を中心とした復興活動に取り組む。</p>
---	---	---

書店様印・番線

福島第一原発廃炉図鑑を 冊申し込めます。

定価：2,300円＋税 ISBN：978-4-7783-1511-5

お名前

ご住所